夢と野望となんたらと・・・

サムイサムイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
夢と野望となんたらと・・・

【Ｎコード】
Ｎ００３６Ｓ

【作者名】
サムイサムイ

【あらすじ】
世界を知りたいという夢とその裏腹に抱く野望が入り交じるファンタジーストーリー

序章

世界とは・・・

果てしなく広く美しいモノだと彼は言う・・・

僕は言う・・・

本当に世界は果てしないのか、広くそして美しいモノなのか・・・

それでも彼は言う・・・

大丈夫、それはいずれ分かると・・・

僕の名前は、まぁ元から名前なんてないんだけど・・・

一応みんなから、「タタラ」って呼ばれてるよ。

僕を育ててくれたマニおじさんが鍛冶屋で昔、砂鉄から取り出した鉄のことを「たたら」って言ったんだって

マニおじさん頑固だから、一度決めたら曲げない、ってか曲げられないひとだから「タタラ」って言う

名前になったんだ。

正直、初めてこの名前を聞いたひとは

「男か女かわからなかった～」

って言ってきてかなり凹んだことがあったけれど（今までで、数十？百回行ってるかな？）

でも、そんな僕にも最近気になることがあるんだ。

突然でっかいこと言うけれど、最近「世界はどこまでひろいのか？」（ついでに世界征服）

って言うことが気になるんだよね～

旅に出よっかな～。

女の勘

そろそろ旅立って世界征服でもしようかな～ってはなうた歌ってたら
「その顔は・・・悪巧みをしていますね！私には分かります。」（
誇らしそうに）
「マーちゃんはなんでそう思ったのかな～？」
「顔に出ていますから」（ニコって笑ってね）
女の勘って恐ろしい・・・

そんな彼女の名前は「マカ」（通称マーちゃん）

みんなもう分かるだろうけれどマーちゃんの勘は鋭い、異常なくら
いに鋭いよ。
「あ、旅に出る気でしょ？」
と、このように見破られる（じつは読心術が使えたりして）

旅立つときには「マカ」も連れて行こう。

仲間（前書き）

やっと前書きの意味が分かりました。
色々書いてみて自分のダメさ加減が分かったのでがんばります。

仲間

一緒に旅に行く仲間は、マーちゃんの他に3人は欲しいな～（出来れば女子）↑野望が増えてるw

キィイン！

突然、頭の中に直接響くような強烈に甲高い金属音が鳴った

それは愚痴マシーンの家の方からだった

タタラ「うるさいぞマッチャ、また剣でも振り回してるのか？」

マッチャていうのは俺の友達で極度のめんどくさがりやで、１０歩あるくごとに愚痴を言う「愚痴言いマシーン」とか「将来ニート志望」とか色々言われてたけれど・・・きょうはなにか違う・・・

マッチャ「タ、タタラ！？たっくなんで今いるんだよ・・・」

タタラ「ん？なにかしてた？」

マッチャ「・・・剣の特訓・・・だけど・・・」

タタラ「ふ～ん・・・」

一瞬空気が固まった。

タタラ「えええぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！！！！！」

マカ「え？なになに？面白そう！」

すかさずマカが入ってくる

タタラ「あ、あのマッチャ・・・が・・・」

マカ「なに？早く教えてよ！」

～5分後～

マカ「え！うそ！」

タタラ「そうなんだよあのマッチャが真面目に、しかも特訓なんて・・・」

マッチャ「わ、悪いか？」

タタラ「どうしたんだよ、なにかあったか？それとも俺がこの間お前のボケを突っ込んだときの手の力が強すぎたか？打ち所が悪かったのか？」

マッチャ「気持ち悪いからそんなに触るな、あとどこも悪くないし、あのツッコミは別に痛くなかったし（うざったかったけど）」

タタラ「じゃあ何があったんだよ、教えろよ～」

マカ「そうだよ、隠しごとなんて水くさいよ」

マッチャ「・・・分かったよ言うよ」

タタラ「さぁ！洗いざらい吐いてもらお・」

マッチャ「ストップ！その台詞は今回で通算９９回だから、１００回言ったら・・・約束通り、アレだからな」

タタラ「・・・分かったから、早く言おう」

マッチャ「・・・俺が」

マカ・タタラ「うんうん」

マッチャ「・・・なぜ剣の特訓を」

マカ・タタラ「うんうん」

マッチャ「していたかというと」

マカ・タタラ「していたかというと？」

マッチャ「オレ・・・」

マカ・タタラ「オレ？」

マッチャ「世界征服したいと思っているんだ！」

マカ・タタラ「え？」

マッチャ「だから世界征服」

マニ「え・・・どういうこと？」

タタラ「愚痴マシーンのお前が？」

マッチャ「う、うん」

またもや部屋の空気が固まった。

マカ・タタラ「・・・」

マッチャ「・・・」

マカ・タタラ「えええぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！！！」

2人は壊れたスピーカーのようにしばらく叫んだ・・・

仲間（後書き）

壊れたスピーカーの様にってどんな感じなんだろうね？

パーティ完成？（前書き）

少しずつ物語が前進してきました。

パーティ完成？

マカとオレはしばらく・・・正確には3分間くらい叫び続けて貧血で1分ぐらい気絶したらしい

まぁ、そんなこともあって少し落ち着きを取り戻したオレとマカはマッチャと話した

タタラ「実話さぁ、オレも世界征服しようと思っていたんだよ」

マッチャ・マカ「へ～、そうなんだそれで？」

タタラ「だから、俺たちに3人で世界征服しない？」

オレは2人に聞いてみたけど、マッチャは来てもマカは来ないかな～

マッチャ「いいよ！ってかオレ3人でやりたいと思ってたんだ」

マカ「別にいいよ」

予想外だった

2人がこんなにも快く引き受けてくれるとは思わなかったからだ

オレは連れて行く仲間も決まったから、とりあえず家に帰った

マ族のひみつ（前書き）

マ族ってなに？こんな素朴な疑問がここで解決！

マ族のひみつ

タタラ「ただいまー」

マニおじさん「おかえ～り」

この「おかえ～り」はマ族特有の方言みたいなモノだ
マ族はいろいろなものに「～」をつけるのが好きらしい
あ、そうそうマ族っていうのは名前の頭文字にマが付く一族で、
いろいろ出来るらしい（何かは分からない）
でもオレの名前に「マ」が付いてないのは
マニおじさんが頑固だったおかげで～す

タタラ「おじさんなにしてたの？」

マニおじさん「剣を作っていたんじゃよ」

マニおじさんは今年で還暦を迎える、が見た目は四十代ぐらいに若々しい
ちなみにオレは１４歳、すげ～青春まっただ中だぜ！
マカとマッチャも１４歳なんだ～

タタラ「注文でもあったの？」

マニおじさん「いいや」

タタラ「じゃあ何で？」

マニおじさん「お前が旅に出るからだ」

タタラ「・・・え？」

マニおじさん「旅に出たら魔物や危ない場面に出会うだろう、そんなときにお前を守ってくれるようにと思ってこの剣を作っていたんじゃよ」

タタラ「オレマニおじさんにそのこと話したっけ？」

マニおじさん「いいや」

タタラ「じゃあ何で？」

マニおじさん「おや？話してなかったかな？わしらマ族は読心術が使えるのじゃよ」

え？ってことは、オレが一瞬マカのこと可愛いと思ったこととか、世界征服のこととか、年上の綺麗なお姉さんと結婚する妄想とか全部バレバレだったわけ！？

マニおじさん「そうじゃよ」

タタラ「ウソだ～～～」

オレはしばらく自分の部屋にこもった

タタラ「オレはマ族をあなどっていたようだ、マ族は魔法を使えるのは知ってたけれど読心術が使えたなんて反則だろ！」

これからオレ、どうなるんだぁ～

マ族のひみつ（後書き）

マ族怖すぎｗｗｗ

進め、我らマ連合（前書き）

マ連合って？それはこの後すぐ！

進め、我らマ連合

タタラ「ヤバイ、一睡も出来なかった」

それもそのはず、ここのマ族の人達のほとんどに世界征服の野望がばれていたからだ

タタラ「もしかしてオレってこのまま引きこもりオンリー？そんなのイヤだー」

相変わらずの被害妄想により発狂するタタラであった…

コンコンコンコン、部屋のドアをノックする音が聞こえる

タタラ「ヤ、ヤバイ！」

タタラは部屋のノックは2回！とか思っていたら

ガチャ、

タタラ「ボクハナニモシラナイ、ココハドコ、ワタシハダレ？」

マカ「そんなありきたりの台詞でだませると思った？」

タタラ「マ、マカ！どうしよう、オレこの村にいられ…」

マカ「村長がお呼びです！！！」

タタラ「え！は、はい…」

オレもう一生の終わりだー！タタラはココロの中で叫んだ

村長「よく来た！迷える子羊よ！さぁ、この冒険の書に記録するが良い！何！？それとも毒の治療が良いか？それともそれとも！？呪いを解いてもらいたいか？全部今日は９０パーセントＯＦＦで１００マルでどうだ？今日限りだぞ！？」

タタラ「いえ、結構です…」

この台詞、どこかで聞いた様な…それにしても村長相変わらずテンション高いな～若々しいな～

村長「お！良いこと言うではないか！」

タタラ「え！何を？」

村長「タタラ！おぬしココロの中で若々しいと言ってくれたな！？それじゃｙｏ！」

あっそうか、マ族は読心術が使えたんだった

村長「それはそうと、おぬしに話がある」

タタラ「は、はい！」

村長「おぬし、世界征服を企んでおるな？」

タタラ「・・・」

村長「大丈夫、おぬしに悪い話ではないぞ」

タタラ「は、はぁ」

村長「それにしても世界征服とはいいのう、若いとはスバラシイ！青春じゃよ！青春！青春！青春！せい…」

タタラ「村長？」

村長「そ、そうじゃった、で、話というのはじゃな…」

タタラ「・・・」

村長「ファイナルアンサー？」

タタラ「ファ、ファイナルアンサー」

村長「正解！」

タタラ「何がですか村長！」

村長「我らマ族はソナタに全面協力する！」

タタラ「え！？ホントですか！」

村長「ああ、そうじゃよ」

タタラ「ありがとうございます！」

村長「いやいや、礼には及ばないよ、我々はこの格差社会に不満を持っていたからな！」

タタラ「え！格差？」

村長「そうじゃ、我々マ族はこの能力のせいで道具扱いされていたのじゃよ」

タタラ「そんなことがあったなんて…」

村長「そこにおぬしの世界征服構想が飛び込んできたっちゅうわけだ」

タタラ「村長はどこ出身ですか？」

村長「それでな、他の村にも声をかけてみたのじゃよ」

タタラ「どうでもいい質問はスルーか…」

村長「そしたら声をかけた村ぜーんぶＯＫしてくれたんじゃよ！」

タタラ「はい…」

村長「ということでわしらはマ族連合組むことにした」

タタラ「へ？」

村長「そしておぬしにはパーティ１のリーダーになってもらう」

タタラ「意外と階級低い…」

村長「まぁ、気にするな！というより、戦った経験がないモノにこんなこと任せられる訳ないだろー！」

タタラ「すんません」

こうしてタタラは世界征服えと1歩踏み出したのであった…

ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｎｕｅ…↑ポケＯン？

進め、我らマ連合（後書き）

村長ｗｗｗ

領地拡大？（前書き）

前回テンションの高すぎる村長のせいでだいぶ疲れました
今回はでないことを祈るだけ…

領地拡大？

昨日は疲れた～村長テンション高すぎ～

マニおじさん「よし！タタラ行ってこい！」

タタラ「はい！」

マニおじさん「良い返事だ！」

タタラ「はい！」

マニおじさん「よし、もう一回！」

タタラ「はい！！」

マニおじさん「もっと大きく！」

タタラ「はい！！！！！」

マカ「遅～い！！」

タタラ「はい…」

そう、今日は開拓をすることになったのだ

タタラ「開拓に武器いらなくね？」

マカ「なに言ってるの？森では魔物も動物も不審者も出るのよ！」

タタラ「そんな物好きいるか？」

マカ「います！」

ふ～ん、まぁ倒せばいいや

タタラ「いってきま～す」

マニおじさん「達者でな～」

これって何時代？

そんな思いを胸に↑ホントに良いのか！？

森に着いた、そしてあの人が…

村長「では皆の衆…かかれー！」

村人「あ、はい」

村長「なに～？声が小さいぞ～？この紋章が目に入らぬか！」

村人「はいはい、村長さんも手伝って」

村長「はい…」

村人は村長を攻略済みだった

まず大人は木を、子どもは下の草や藪をかたづけたり、耕したり

タタラ「よし！やるか！」

ガサガサ

タタラ「ん？なんだ？」

音のした方向に行ってみると

タタラ「なんだこの愛くるしい子犬たちは―！！」

マッチャ「それは触るな―！」

タタラ「へ？」

遅かった、みんなはもう分かるかな？
ヒントは、可愛いのは子どものうちだけだよ

領地拡大？（後書き）

どうなるタタラ！

魔物って…（前書き）

実はヤバイヤツに手を出してしまったタタラ、一体どうなる！

魔物って…

マッチャ「それは！」

タタラ「へ？」

柴犬に似た可愛い子犬たちがよって来たので思わず触ろうとしたら…

ガウ！

すると横から少しでかい柴犬みたいな鋭い牙が少しあるヤツが…

ガウガウ！！

するとまた横からさらにでかい柴犬？いやもう柴犬ではない、ただのクマだー！！！

タタラ「死ぬ死ぬ！マッチャ助けて！」

マッチャ「村長～」

タタラ「お前に頼んでいるんだよ！」

じわじわと間を詰めてくるクマ？しばクマ？クマしば？そんなのもうどうでも良い！

タタラ「早くー！」

村長「このわしが来たからにはもう大丈夫じゃ！」

村長「戦闘！開始！じゃ！」

村長はチカラをためている…

クマしばＡの攻撃！

タタラは必死によけた

タタラ「これってドラ〇エじゃ…」

村長「きえーい」

タタラ「だまれってことか…」

クマしばたち全員の攻撃！

村長「はぁぁぁぁぁぁぁぁああああああ！！！！！！！！」

村長の攻撃！！！！

クマしばたちは警戒している！

村長「この…！！紋章が…！！！目に…！入らぬかーーーー！！！！！！」

タタラ「おお！！」

マッチャ「いまだ、逃げるぞ！」

タタラ「え！？すっごい良いところなのに…」

マッチャ「良いから！」

タタラたちは逃げた！

クマしばたちは怒り狂ってる！

村長「え？もしかして…」

クマしばたちが村長に襲いかかる！

村長「逃げろー！！」

マッチャ「これも村長の犠牲の上に成り立っているからな＾＾」

タタラ「足早っ！！」

魔物を倒すなら村長に

０１２０－６４６４－５３５３（むしむし　ごみごみ）へ！

魔物って…（後書き）

村長っていくつ？

地主さん（前書き）

前回、村長のおかげで助かったタタラ
無事新しい土地を手に入れられたのか！？

地主さん

タタラ「ふぅ～、おわった～」

マッチャ「いっそのこと食われればよかったかもな」

タタラ「おいおい、なんだよそれ」

マッチャ「で、村長にはあやまるの？」

タタラ「う・・・、今度墓参りに行きます」

村長「まだだ、まだ死なんぞ！！」

タタラ・マッチャ「うわ！生きてた！」

とりあえず、タタラたちは作業を終わらせた

村長「これより、会議を行う」

村人たち「はい」

村長「議題は・・・、誰がここの地主になるかだ！」

村人たち「ええ！？」

村人Ａ「みんなの公共の場にすればいいんじゃないんですか！？」

村人Ｂ「そうですよ！そしたら不公平じゃないですか！」

村長「みなが言う気持ちもわかる・・・だがしか～し！これには深いわけがあるんじゃよ」

村人Ａ「深い・・・」

村人Ｂ「わけ・・・？」

村長「そうじゃ、それは今から3年前・・・」

村人たち「あ、このパターンは時間がかかってかつ結論が出ない村長の妄想思い出話のパターンだ」

村長「それでな～、学校に遅刻しかけて走っていくと・・・」

村人たち「じゃあ、公共の場で仮決定します」

村長「で、すると誰かとぶつかったんじゃよ・・・」

この後、３０分間村長が一人で喋り続けて
一人置いて行かれたことは言うまでもない

タタラ「いやー、意外と世界征服とか難しいんだね」

マカ「最初からうまくいくわけないでしょ！全く、とらぬたぬきの皮た算用じゃない」

タタラ「なんか違くない？」

マカ「たを抜けばわかるでしょ？」

タタラ「そっちのた抜き！？」

マカ「そうだけど、もしかして知らなかった！？」

タタラ「うん・・・」

マカ「あんたね～、時代遅れ。２４年前までさかのぼっちゃえばよかったのに」

タタラ「なんで２４年前？」

マカ「当時のマ族は、自分たちの村に入った違う民族を一人残らずあの世送りにしてたんだよねえ～」

タタラ「えええ！？そしたらオレ死んでるじゃん！」

マカ「冗談だから、大丈夫」

タタラ「ほ・・・」

こんな感じでこの日は終わった

この後何があるかも知らずに・・・

地主さん（後書き）

無事、領地拡大したタタラたち
しかしその先に待ち受ける結末とは！？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0036s/

夢と野望となんたらと・・・

2011年10月8日22時13分発行